

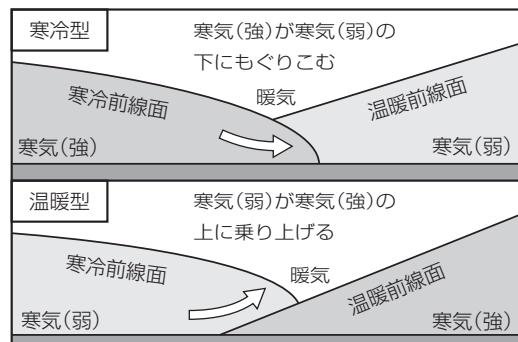
天気の変化と大気の動き・大気の動きと日本の四季

日本付近の低気圧と前線

閉塞前線には寒冷型と温暖型があります。閉塞前線が寒冷前線に直線的につながっているときは寒冷型、温暖前線に直線的につながっているときは温暖型と判断できます。

生徒のつまづきポイント

生徒は、気団が大規模な高気圧の中で形成されるということを忘れがちです。そのため、典型的な夏や冬の天気図を見たとき、大規模な高気圧が示されているにもかかわらず、気団と関連づけた読み取りができないことが多くあるので気をつけさせましょう。



閉塞前線の断面構造(寒冷型・温暖型)

日本付近で発達する気団

●シベリア気団

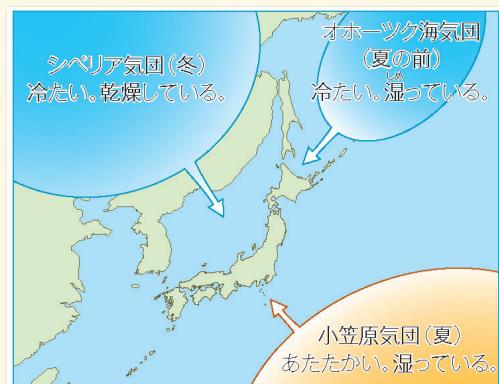
バイカル湖を中心としたシベリア地方が冬の放射冷却によって寒冷になってできます。-50°Cまで冷えることがあります。ヒマラヤ・チベットの高い山脈に遮られて、大気を南方に放出することができないため、ますます冷やされて、強い高気圧になります。

●小笠原気団

ハワイ付近を中心とし、北太平洋一帯に広がる北太平洋気団が西に張りだした部分の、高温・多湿の気団です。亜熱帯高圧帯に位置し、夏に海洋上が高気圧になる傾向が重なって、夏に発達、北上し、日本に影響を及ぼします。

●オホーツク海気団

オホーツク海を中心に、梅雨期に発達します。低温・多湿であり、梅雨前線は、この気団と小笠原気団の間にできます。



以前、揚子江気団と呼ばれていたものは、気団の定義となる「移動しない、または、移動しにくい停滞性の大規模な高気圧」といったものに該当しないことから、現在の気象学では、日本付近の気団から除外されています。

■さらにくわしくお知りになりたい場合